

潮音寺だより

〈ホームページ〉 <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

第277号
平成18年11月

電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-
0034 名古屋市熱田区伝馬1-10-11

信を一念に取り、
行に尽すべし。

出典『三心料簡および御法語』 法然上人

体裁だけの
ただ

ダブダブ
念佛は
いけません

ただ
唱えるだけの

力を込めて
集中!!

ダラダラ
修行も
いけません

思いを込めて
集中!!

Photo by Chahkuh Syahdah

十三仏

檀信徒各位には、大変お世話になりました。お蔭で今まで、外観はも

ちろんの」と、機能面においても予想以上の出来栄えになり、感謝至極に存じます。本当にありがとうございました。

最上階の位牌堂には、金色まばゆい十三体の仏像（十三仏）を安置させていただきました。元来、南区のある町内で、弘法大師像と共に地域の信仰を集めていた諸仏像でありましたが、お世話をされる方が年々少くなり、昨年再縁あつて当社に来ていただきことになりました。当初、かなり痛んでいましたので、修復をしていただきました。ただ、不動明王像の痛みが特にひどく、近々彩色鮮

やかなお姿でお戻りにならねるとは思いますが、今もつい「」不在あります。

（十三仏）とは、人が」とい

す。それぞれの仏様には、次のようにお導かいただけなのです。

◎初七日【不動明王】

（死を認識する）

なった後、初七日から三十三回忌までの忌口を司る」とされ十三の仏・菩薩・明王の総称であつます。学問的に説明するとなれば、「中國の十王思想から発展し、いずれも冥王の本地仏とされ、『地藏十王經』には、はじめて十仏事のみが説かれ、日本における中世以降にあとの三仏事が加わり、十三

仏信仰が成立した」となります。ただし、そのような小難しい」とはとして重要な」とではなく、愛する人との悲しい別れ、残された遺族の切ない思いが、「十三仏」信仰の基となっていふといふことを知っていたけたら、と思いま

◎一七日【新迦如来】

（仏道の基礎を教わる）

◎四七日【文殊菩薩】

（仏の慈悲を授かる）

すでに現世に生じて、迷いを捨て去り、釈尊の教えを十分に身につけて、自覚めてくるのであれば、

何も、^{かまひ}迷いを断つたり、往生の方向を探つたりする必要はあります。しかし、悲しいかな、それが出来ないで、弱い人間のまま死を迎えてしまったからこそ、仏の助けを借りなければならぬのです。生前に身につけておぐべき仏道修行の三昧^{みめい}、この三つの関所で教えてくれるのが「釈迦三尊」です。

◎五七〇【地藏菩薩】

^{くわんじゆ}〈苦しみからぬ救^{すく}い〉

わが心にしたる靈^{れい}が、人々の来る世に向け、はつきりと方^{ほう}向^{むけ}をしなければなりませんし、させなければなりません。六道のどこかに迷い込んでしまつていて、それを引き上げて、もともな道へ連れ戻してやる必要があります。それをおどすのが「地藏菩薩」です。

◎七七〇【藥師如來】

^{くわんじゆ}〈彼^{かれ}岸^{きし}への旅立^{たたか}い〉

こよしよ四十九日の満中陰です。^{（じよ）}現世に別れを告げてから、次の世へ移る中途半端な状態が終わる、と考えられます。家族などが毎日祈つてくれた特別の壇は、この口張りで取つ払われます。白木の位牌も黒塗りに替わり、仏壇の中に入ります。靈^{れい}として下さる仏様方であります。

◎一 周忌【勢至菩薩】

^{勢至}〈阿彌陀如來〉

ナシビ、極楽浄土への道に導いて下さるのは、「阿彌陀三尊」です。◎二回忌【阿彌陀如來】

ナシビ、極楽浄土への道に導いて下さるのは、「阿彌陀三尊」です。

◎三回忌【阿彌陀如來】

^{阿彌陀}〈阿彌陀如來〉

ナシビ、極楽浄土への道に導いて下さるのは、「阿彌陀三尊」です。

◎四回忌【大日如來】

^{大日}〈虚空藏菩薩〉

ナシビ、極楽を経て、よつてベルアシブして復活するよつて導いて下さる仏様方であります。

◎六七〇【弥勒菩薩】

^{くわんじゆ}〈彼^{かれ}岸^{きし}の功徳を授か^ゆる〉

弥勒菩薩は、釈迦入滅後五八億七千万年の後、「^{（じよ）}の世」に下降して、釈尊の説法に漏れた無数の衆生を救済するところわれる未来仏です。遠い将来のようではあります、が、そのような仏を確約された菩薩よ、りの導きは、その存在だけでも安らぎが得られるのです。

◎七七〇【觀世音菩薩】

^{觀世音}〈彼^{かれ}岸^{きし}の音聲を傳^{つたへ}ふ〉

左手に持つた壺には、衆生のあらゆる病^び苦^くしみを癒^癒し、救つゝがんばるひされた薬^{くすり}が入つており、彼岸^{かれん}への旅立^{たたか}いに、その薬をくみべし^{べし}とののです。

◎八七〇【十一面觀音菩薩】

^{十一面}〈彼^{かれ}岸^{きし}の音聲を傳^{つたへ}ふ〉

人立ちあらぬときなのです。「^{（じよ）}の大きな関所に登場する仏様が、東の淨土に下りて、出発までの過去世を司りてくれる「藥師如來」です。左手中に持つた壺には、衆生のあらゆる病^び苦^くしみを癒^癒し、救つゝがんばるひされた薬^{くすり}が入つており、彼岸^{かれん}への旅立^{たたか}いに、その薬をくみべし^{べし}とののです。

◎工事状況報告

完成写真を、プロに撮っていただきました。十月十七日に庭の植栽をしていただきました。



▲位牌堂内部

▼全景



▲十三仏



◆ 可愛い三毛猫が遊びに来ます。
◆ 野良猫や捕らえし
◆ バツタ置き土産 沐魚
◆ 記

